

・沖縄といつた南西日本と北海道に暮らす先住民族の間に多く見られ、加計呂麻島にも多い。ヒト社会の中には一万里以上も前に持ち込まれたと考えられていく。母乳によって母から子へ伝えられていく。

二つの意味で不思議なウイルスである。第一に地理的分布が不思議である。九州・沖縄といつた南西日本と北海道に暮らす先住民族の間に多く見られる（書いた）。それ以外の地域ではほ

風が島を吹き抜ける。デイゴの葉がそよぐ。太陽が山の端に落ち、夕闇があたりを覆う。西の空に金星が輝きを増す。柳田国男が「海の道」と呼んだ奄美（日本書紀によれば海見）群島の一つ、加計呂麻島へ来ている。成人T細胞白血病（ATL）ウイルスに関する研究のためだ。

今を読む

長崎大熱帶医学研究所教授

山本 太郎



やまもと・たるひ
964年竹原市生まれ

1 長崎大医学部卒業。外務省國際協力局課長補佐な

その間、発展途上国で感染症対策に従事。著書に「新型インフルエンザ」「ハイチ いのち」の翻訳など。長崎市。

とんど確認されていない。

説がある。確かにこの土
ルスが古代日本と交流の深
かつたであろう朝鮮半島や

召し使いや奴隸として
てこられたであろう多
黒人が描かれている。

流れする。社会変化とウイルスの
流行の様相をもう一度検証
する。そんな研究のため加

すれば、将来の日本あるいは
はアジアの医療を考えるう
えで貴重な経験になるはず
だ、と言つのである。

で、アフリカから持ち込まれたから昭和三十年代までは、ているのですよ」。島の高齢者比率は60%に迫る。「老介護」も多い。
によつて黒人たちの国となつた「カリブ海のハイチなど」は人も自然も変えてしまつた」と言う人がいる。ATの日本の姿、あるいは急激なこの説が当てはまる。しかし、それは数十年後ATの日本から歴史を垣間に高齢化が進むアジアの姿、鎖国時代唯一の交易港た」と言つた。A.T.の日本、あるいは急激なこの説が当てはまる。しかし、それは数十年後には、歐米人たちとともに見ると、こうした言葉が説得力を持つ。そうしたヴィンセントは長崎に残る南蛮屏風、得力をを持つ。そこで地域のニーズにルスの起源をもう一度検証、応じた医療が実践できると

加計呂麻島に吹く風

そうした謎を残すATL 計呂麻島にやつて来た。工業化の波が完全には社会を一変させなかつた島、近代化で

こ加計呂麻島あるいは日本
の「辺地」と呼ばれる地域
は、私たちに過去と未来を

日本の過去と未來映す

真摯に住民と向き合う彼の姿勢とその言葉に胸を突かれた。もしかするとこ

岬の周辺、紀伊半島の空端、日本海に浮かぶ島々。なぜ、ど存在しないという事実が、このような地理的分布を示すのか。

かつて大陸から渡来した「新日本人」が大和朝廷を形成する過程で、このウイルスを持つ集団であつた「古日本人」を日本列島の南北に押しやつたという仮説は、この仮説を支持する。

しかし、この仮説、大陸を本列島に持ち込まれたのか、本列島に持ち込まれたのか、という疑問も呼び起こそす。一方、このウイルスがヨーロッパ人たちの交易と植民地化の過程

をそぞりしている。これが第二の不思議。一万年以上にわたって、私たちヒトとともに暮らしてきたウイルスが…。ウイルス自身に大きな変化がないとすれば、ヒト社会がこのウイルスにとって窮屈な世界に変わったことを意味する。

○ ○ ○
取り残された島である

同時に教わってくれる「場」なのかもしれない、と考えた。そうした場所を「辺地」と呼ぶのは間違っているのかもしれない…。

調査の中日の日曜日。吹き抜ける島風を体で感じながら、混在する「過去・現在・未来」を体感する不思議な気持ちにどらわれた。